

浪速区西南地域まちづくりビジョン

令和元年8月
大阪市浪速区役所

目次

1	浪速区西南地域の概況	…	P 1
2	まちの魅力と課題	…	P 6
3	めざすまちの姿	…	P 9
4	「めざすまちの姿」へ向けて民間活力を 中心とした取組みについて	…	P 11
5	スケジュール	…	P 14

1 浪速区西南地域の概況

(1) 西南地域のなりたち

浪速区は本市の中心部に位置しており、なんば周辺にターミナル機能を有し、商業がさかんな地域を有しています。また、JR新今宮駅北側には大規模な宿泊施設の建設予定地となるなど活気あるまちとして発展を遂げようとしています。

中でも浪速区の西南地域には、本市による大規模な市営住宅建設が行われた結果、緑豊かな中に、多くの市営住宅が立ち並び街並みが広がりました。

こうした地域にお住まいの方々を中心に、人にやさしいまちづくりの視点からの様々な取り組みが生まれてきています（子どもたちの登下校の見守り支援等）。

また、地場の産業として皮革加工業が盛んな地域であるという特徴もあります。

併せて、同地域には本市が所有する土地が、他地域に比べて多くを占めていました。それらの本市所有地のうち、先駆的に売却が進んでいるものの多くが住宅の用に供されている現状があります。後述のとおり、民間活力によるまちの賑わいづくり支援の取り組みがなされているものの、まだまだ多くの本市の未利用地が残されており、その利活用によっては街の様相が変わっていく可能性があります。

(2) 賑わいづくりのための取り組み

当区の西南地域は、市営住宅と公共施設と空地が多くを占めていたエリアですが、公共施設の多くは廃止され、市営住宅も集約化が進みました。

一方で、地域の方々によるまちの賑わいづくりが着実に進んでいます。

特に平成25年6月からは大阪市が設定した「浪速区イベント特別優遇エリア（イベント得区）」において、芦原橋地域再生推進協議会を母体として設立された一般社団法人リイドにより、毎月第3日曜日に「芦原橋アップマーケット」が開催されており、毎回約80～100のブースが出店し賑わいづくりとエリアのブランディングに繋がっています。

【アップマーケットの開催実績】（抜粋・雨天の場合は中止）

開催日	2013/6/16	2013/10/20	2014/1/19	2014/4/20	2014/7/20	2014/10/19	2015/1/18	2015/4/19
出店数	55	52	75	85	73	85	73	81

開催日	2015/7/19	2015/10/18	2016/1/17	2016/4/17	2016/7/17	2016/10/16	2017/1/15	2017/4/16
出店数	86	102	85	116 中止	109	108	67	109

開催日	2017/7/16	2017/10/15	2018/1/21	2018/4/15	2018/7/15	2018/10/21	2019/1/20
出店数	98	113 中止	81	90	79	102	85

【JR芦原橋駅 乗降客数の推移（人／日）】

低落傾向に歯止めがかかり、増加に向かっています。

（参考：アップマーケット開催は平成 25 年度より）

年次	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
乗降客数	5,911	5,431	5,356	5,366	5,455	5,354	5,441	5,514	5,727

（大阪府統計年鑑より）

また、近年は人口の都心回帰が進んでいる影響もあり、鉄道駅の徒歩圏内に多くの空地が存在するこのエリアにおいて、本市の未利用地が売却された後は、戸建て分譲住宅やマンション建設が進んでおり、とりわけ近年は外国人住民の方の転入が多く見られます。

一方で、市営住宅は高齢・単身者が増加しているとともに、地域コミュニティの担い手の不足、新たにこのエリアに住まわれる方との交流・ネットワークづくりが課題として浮上してきています。

【外国人住民の推移】

	平成17年		平成22年		平成27年	
	人口	外国籍住民数	人口	外国籍住民数	人口	外国籍住民数
浪速東1丁目	52	7	27	1	34	0
浪速東2丁目	463	18	443	18	518	36
浪速東3丁目	900	33	528	31	509	41
浪速西1丁目	224	3	546	28	606	42
浪速西2丁目	728	22	647	18	530	43
浪速西3丁目	450	6	391	13	409	29
浪速西4丁目	513	22	451	42	409	36
芦原2丁目	183	0	94	0	167	36
久保吉1丁目	506	29	486	29	526	58
木津川2丁目	392	13	164	17	165	20
合計(人)	4,411	153	3,777	197	3,873	341
平成17年を100%とした場合の比率	100.0%	100.0%	85.6%	128.7%	87.8%	222.8%
外国籍住民の比率	100.0%	3.4%	100.0%	5.2%	100.0%	8.8%

(参考)

浪速区合計(人)	54,174	3,104	61,745	4,002	69,766	5,605
平成17年を100%とした場合の比率	100.0%	100.0%	113.9%	128.8%	128.7%	180.5%
外国籍住民の比率	100.0%	5.7%	100.0%	6.4%	100.0%	8.0%

(平17・平22・平27総務省統計局国勢調査結果より作成)

(3) 増加する児童数／人口動態

西南地域は、進行する住宅建設と相まってここ数年は児童・生徒の増加傾向が続いています。

その中には、外国人の児童・生徒も含まれており、日本語での日常会話が困難であったり、学習するための語学力が不足しているために授業の内容が十分に理解できないといった事例が増えています。

こうした状況に対応するために、教育委員会事務局は、今年度より新たに浪速区内の大国小学校と木津中学校に「帰国した子どもの教育センター校」を設置し、日本語指導の充実を図るとともに、当区としても学校支援ボランティアの拡充に取り組んでいます。

また、学力課題への対応として、教育委員会事務局では、校長の裁量により独自の学力向上施策を実施できる取り組みを始めるなど、新たな教育の展開に期待が集まっています。

一方で、従前から市営住宅に住まわれる方を中心に、高齢化が進行しており、浪速区全体に比しても高齢者の割合が高止まりしていることから、賑わいづくりやコミュニティ活性化の担い手不足に繋がっています。

ここ数年は児童・生徒の増加傾向が続いており、今後も少なくとも数年間はこの傾向が続く見込みです。

【市立栄小学校 学級数・児童数推移】

	児 童 数							学級数（普通学級）							特 別 支 援
	合計	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	
平成 25 年度	141	25	25	20	23	19	29	1	1	1	1	1	1	6	2
平成 26 年度	145	30	24	26	21	22	22	1	1	1	1	1	1	6	2
平成 27 年度	157	33	29	25	26	22	22	1	1	1	1	1	1	6	2
平成 28 年度	170	33	34	30	26	27	20	1	1	1	1	1	1	6	2
平成 29 年度	199	42	33	36	29	30	29	2	1	1	1	1	1	7	2
平成 30 年度	204	31	44	33	36	28	32	1	2	1	1	1	1	7	2

（各年度 5 月 1 日児童数：大阪市ホームページより）

【エリアの人口動態、世代別人口割合など】

高齢化が進んでいますが、15歳未満人口は下げ止まってきています。

	平成17年					平成22年					平成27年				
	人口	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	年齢不詳	人口	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	年齢不詳	人口	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	年齢不詳
浪速東1丁目	52	5	33	14	0	27	1	16	10	0	34	0	19	15	0
浪速東2丁目	463	69	254	140	0	443	47	202	170	24	518	72	279	164	3
浪速東3丁目	900	68	574	258	0	528	59	296	170	3	509	62	259	186	2
浪速西1丁目	224	16	119	89	0	546	40	333	172	1	606	49	328	200	29
浪速西2丁目	728	114	461	153	0	647	80	380	185	2	530	70	296	162	2
浪速西3丁目	450	63	256	131	0	391	43	232	114	2	409	55	227	127	0
浪速西4丁目	513	75	369	69	0	451	55	292	90	14	409	53	253	103	0
芦原2丁目	183	13	112	47	11	94	8	55	31	0	167	32	110	25	0
久保吉1丁目	506	40	347	119	0	486	45	299	135	7	526	56	320	138	12
木津川2丁目	392	45	227	73	47	164	36	112	15	1	165	22	116	17	10
合計(人)	4,411	508	2,752	1,093	58	3,777	414	2,217	1,092	54	3,873	471	2,207	1,137	58
比率	100%	11.5%	62.3%	24.7%	—	100%	10.9%	58.6%	28.9%	—	100%	12.1%	56.9%	29.3%	—

(参考)

浪速区合計(人)	54,174	3,494	37,094	10,734	2,852	61,745	3,609	43,967	11,548	2,621	69,766	4,630	48,428	12,738	3,970
比率	100%	6.4%	68.4%	19.8%	—	100%	5.8%	71.2%	18.7%	—	100%	6.6%	69.4%	18.2%	—

(平17・平22・平27総務省統計局国勢調査結果より作成)

(4) 多様性のあるまちづくり

近年、西南地域においては本市の未利用地を売却した後、それらの用地を活用して戸建て分譲住宅・マンション建設が進んでいます。

これらの住宅建設が急速に進んでいるために、将来においては、住宅の老朽化も同時期に起こります。都心にある住宅地として、何らかの機能を付加することや、様々な間取りの住宅を供給し、一定の転出入される方々を受け入れることによって常に活気のあるまちづくりができないか検討する必要があります。

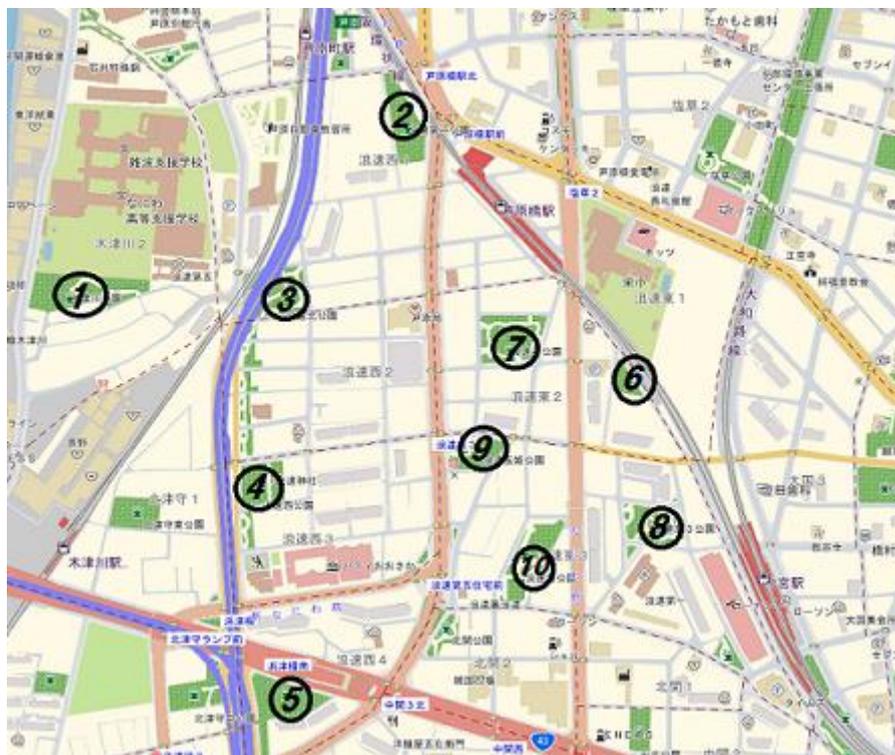
2 まちの魅力と課題

(1) 住環境・交通状況

西南地域は、過去に多くの市営住宅を建設していく過程において街区の整理が進んでいます。また、なにわ筋や新たにわ筋、JR大阪環状線(芦原橋駅、今宮駅)や南海汐見橋線(芦原町駅)などが通っており交通の便に恵まれているエリアです。

以前は、住民の多くは市営住宅に居住していましたが、浪速区内の他のエリアに比して静かで、かつ要所に公園も配置されているので、住宅地としてのポテンシャルが高いことから、本市未利用地の売却が進むにつれ、現在は戸建て分譲住宅やマンション建設が進んでいます。

【公園の一覧(名称、面積)】



図番号	公園名称	位置	面積 (m ²)
1	木津川	木津川2丁目	5,298
2	浪速第1	浪速西1丁目	3,123
3	浪速北	浪速西1丁目	3,753
4	浪速西	浪速西3丁目	1,642
5	新浪速	浪速西4丁目	1,680
6	浪速東	浪速東2丁目	1,000
7	浪速中	浪速東2丁目	4,523
8	浪速東3	浪速東3丁目	3,292
9	浪速玉姫	浪速東3丁目	2,280
10	浪速南	浪速東3丁目	4,714

(2) 地域資源

江戸時代から伝わる地場の産業として、和太鼓や皮の加工製品の製造（レザークラフト）が盛んであり、今なお地域に工房が根付いています。

大阪市の未利用地を活用した、まちの活性化に繋がる取組みとして、毎月第3日曜日には「芦原橋アップマーケット」が開かれており、区内のみならず広く来場者が集っています。開催回数を重ねるごとに出店者も多様化しており、この取組みによってまちの賑わいとエリアのブランディングに繋がっています。

このようなアップマーケットの効果もあり、近隣のビルではコンバージョン（改装）されてイベントスペースに生まれ変わったところも出てきており、レザークラフトの新たな担い手を育成する拠点が誕生しました。その他にも、浪速神社の夏祭や、さくらまつりが地域の方々により盛大に行われており、地域内のネットワークキングの機会ともなっています。

西南地域のエリア内に存在した「市民交流センターなにわ」をはじめ、多くの公共施設は廃止されましたが、現在も、人材育成を担う「大阪市キャリア教育支援センター」や「A´ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）」、人権文化の発信拠点である「リバティおおさか（大阪人権博物館）」があります。

(3) 地域活動団体など

連合振興町会や防犯協会浪速支部などを構成団体とする浪速地域地域活動協議会（※1）を中心とした、地域活動団体が高齢者向けのふれあい喫茶に取り組んでいるほか、課題を抱えた子ども達の見守り、子ども食堂や自習ルームといった居場所づくり、学力向上支援、子育てサロンなど、学校・地域が連携して子ども達の健全育成に取り組んでいます。

ただ、個別具体的な地域活動団体の取り組みは、地域全体で取り組んでいく課題としての認識が希薄化し、担い手が限られている現状があります。きめ細かな活動の継続がなされていく上では、現状の担い手に負担が大きくなっています。

※1：「地域活動協議会」とは

⇒ おおむね小学校区を範囲として、地域団体やNPO、企業など地域のまちづくりに関するいろいろな団体が集まり、話し合い、協力しながら、さまざまな分野における地域課題の解決やまちづくりに取り組んでいくための会議体です。

(まちの課題)

- ・近年急速に進んでいる住宅建設、その一方で賑わい・商業機能の不足
- ・公共施設の廃止・移転などによる交流拠点の不足
- ・今なお存在する比較的大きな未利用地活用方針の具体化の遅延
- ・住民の高齢化や新住民割合の増加によるコミュニティ・ネットワークの希薄化と地域活動の担い手不足の進行
- ・民間の教育関連産業（塾・外国語の教室など）・生涯学習の場の不足

【主な未利用地の一覧〔名称、面積、備考（活用状況など）】

名称	面積	備考
もと市民交流センターなにわ用地	約 3,544 m ²	建物あり (住所：浪速西1丁目3番街区)
イベント得区B用地	約 4,369 m ² (2街区)	うち北側街区を「芦原橋アップマーケット」会場として活用中 (住所：浪速東1丁目7番街区他)
今宮用地	約 8,129 m ² (3街区)	事業用借地権設定契約中 (住所：浪速東3丁目1番街区)
もと浪速青少年会館用地	約 18,952 m ² のうち「こども相談センター」 移転予定地の約 10,000 m ² を除く 面積	土壌汚染あり (住所：浪速東1丁目1番街区)
もと浪速第2住宅他用地 (旧イベント得区A用地)	約 15,524 m ²	用地の一部を暫定利用中 (住所：木津川2丁目3番街区)

3 めざすまちの姿

(1) 子育て層が住みたい、住み継ぎたくなるまち

現在、浪速区では課題の一つとして「子育て層の定着」を掲げています。そのためには、より良い住環境と教育環境の維持・発展が重要な要素です。

より良い住環境とは、まずは住み手（住民）にとって価値ある住まいが存在すること、さらには住まいやまちに人々が関わることによって生まれる新しい価値を発見し、高めていくことにより豊かな人生を過ごせること、つまり住み手自身が「住みごたえ」(※1)を高めていくことが重要です。

また、「住みごたえ」を高めていくのみならず、家単体だけではなく、まちの中で「住み継ぐ」(※2)姿勢を持つことも大切だと考えられます。人々の相互の関わり合い（コミュニティ）こそが「住みごたえ」を高める重要な要素となりえます。

西南地域には、多くの外国人家族の転入や、市営住宅に多くの高齢・単身者世帯が居住しているなど、様々な人数の世帯が居住しています。そのような多様な世帯人数が居住している地域において、住居の間取りに多くの選択肢があることは、子育て世代・夫婦世代・高齢単身世代のそれぞれの家族構成に対応できる「住まい」が提供できることとなります。そうして、流動的に地域内で最適の間取りを選択できる住宅状況こそが、「住み継ぎたくなる」まちの環境の条件となりえます。

そうした居住のスタイルに多くの選択肢が生まれることにより、住み手は地域コミュニティから離れることなく、一生をその地域で住み続けることができるようになります。

また、教育環境については、大阪市教育振興基本計画において、すべての基礎となる幼児期から小・中学校を通じた義務教育終了までの期間に社会で生き抜くために必要となる基礎的な知識や力の習得を徹底してめざしています。この点を踏まえて、教育委員会事務局では学力課題への対応等として、浪速区内においてもさまざまな取り組みを始めています。

さらに区役所においても、小・中学校の取組を支援するために、小学生や中学生の学校の授業以外での学習機会の提供など、学習習慣の定着や基礎学力の向上につなげるための各種施策に取り組んでいます。

こうした取組を通して教育環境の向上を図り、子育て世代にとってさらに魅力あるまちをめざしていきます。

※1：「住みごたえ」とは

⇒ 住まいやまちに人々が関わることによって生まれる新しい価値を発見し、高めていくことにより豊かな人生を過ごせること。

※2：「まちの中で『住み継ぐ』」とは

⇒ 一つの住居に縛られずに地域に根差して住み続けることであり、地域コミュニティに継続的にかかわり続けながら、世帯人数やライフスタイルの変化に応じて地域や、その近隣に住み続ける生き方。

(2) チャレンジを受け入れる多文化共生・交流のまち

「住む」だけでなく、「住み継ぎたく」なるまちには、職住近接・賑わいの拠点づくり・通信インフラの整備など多様な要素が必要です。そして、異なる価値観を持つ人々が「住みごたえ」を実感できているとき、まちの魅力は高い状態を保っていることとなります。そのため外国人住民が多い、単身高齢者が多いことなどの近年の地域状況を踏まえ、人にやさしいまちづくりを進めてきた地域の素地をさらに、まちの「強み」や「個性・魅力」に変えていく仕掛けが必要です。

そこで今後は、本市の未利用地を活用しての商業機能や人々が集う場（例えば文化サロンやサブカルチャーをテーマにしたものなど）の誘致等といった、賑わい・交流の拠点づくり、学校・会社以外での学びの場づくりを進めることや、より魅力あるまちに向けて多様な主体の連携による多彩な取り組みを進めていくことが求められます。

また、地域内にバランスよく配置されている公園や賑わいづくりの場を通して、様々な世代や国籍の方々が交流できるような取り組みを始めていきます。

また、地域内に生活に必要なすべての機能を揃えるのではなく、西南地域以外にも目を向け、外より積極的に人材を呼び込むことにより新たな担い手の育成につなげるなど地域コミュニティの活性化を促す取り組みを進めます。

4 「めざすまちの姿」へ向けて民間活力を中心とした取組みについて

(1) 多様なニーズに対応できる住居と良好な住環境

- 本市未利用地の売却等にあたって子育て層が住みたいと感じる住居の供給（P13の①②の各エリアを除いた本市未利用地）
- 法令等によって詳細に規定されている市営住宅について、関係各所との最大限の調整のもとに市営住宅ストックを有効活用

(2) 自らの力で将来を切り開く力をつけるための、公民連携による、より良い教育環境

～語学学習、職業・社会体験を通じて～

- 地域で多様な「学び」の場があり、社会的な経験を積める環境づくり
- 市立小学校が取り組むさまざまな学力向上の実践
- 小・中学生が、学校の授業以外で学習できる機会の提供
- 日本語の指導が必要な児童・生徒の学校生活の支援をするための取組みの推進
- 日本語に課題のある児童・生徒に対する支援としての専門学校との連携・交流

(3) 賑わい・交流・学びなどの機能の誘致

- 「もと市民交流センターなにわ用地」などの本市の未利用地を売却する際に、企画審査を導入することなどによる賑わい・交流・学びの拠点づくりの推進
- 大規模未利用地への「集客施設」や「雇用の場」の誘致
- 今宮用地の定期借地権終了後の売却等の公募条件の検討（既存施設が果たしている賑わい・防犯等の機能の誘致）
- 地域のブランド力を向上させ、かつ小規模事業者等がチャレンジできる場の提供（例：皮革加工をはじめとしたアート・クラフトの工房やショップ・芦原橋アップマーケット）

(4) 地域に「新しい誇り～シビックプライド～」(※3)を生み出すような重層的なコミュニティ・ネットワークの醸成

- エリアに多く存在する公園を活用した催事等による活性化や美化活動による愛着の深化
- 住民主体の取組みによる、ゆるやかなコミュニティの形成・維持・発展（例：清掃活動・防災等共通の目的・活動を通じたコミュニティづくり）

※3：「シビックプライド」とは

- ⇒ 都市に対する誇り。地域に対する愛着だけにとどまらず、その地域の課題解決といった行動の姿勢もふくむ。

(取り組みを進めるにあたっての考え方)

- ◎ これまで取り組んできた西南地域の「人にやさしいまちづくり」と「賑わいと活力に満ち溢れるまちづくり」の観点から、地域住民をはじめ多様な主体とともに、トライアルの視点を踏まえて、次章の各フェーズにおける取り組みの実行化を図っていく。

- ◎ 今後、このビジョンの取り組みについては、浪速区が主体となって進捗管理する。また、地域活動協議会等の地元関係者や、ビジョン策定に携わった学識経験者及びこのエリアのまちづくりに関心を寄せる有識者を交えたラウンドテーブル会議を行い、事業の進捗確認やビジョンに沿ったまちづくりに関して意見交換を行っていく。

これらの要素を踏まえて、西南地域の機能別のゾーニングとしては、

① 駅周辺に「賑わいづくり・交流・学びの拠点づくり」エリア

⇒ 「もと市民交流センター用地」「イベント得区B用地」「今宮用地」については駅近であり利便性も高いことから「賑わい・交流・学びの拠点づくり」の視点を踏まえての活用とします。

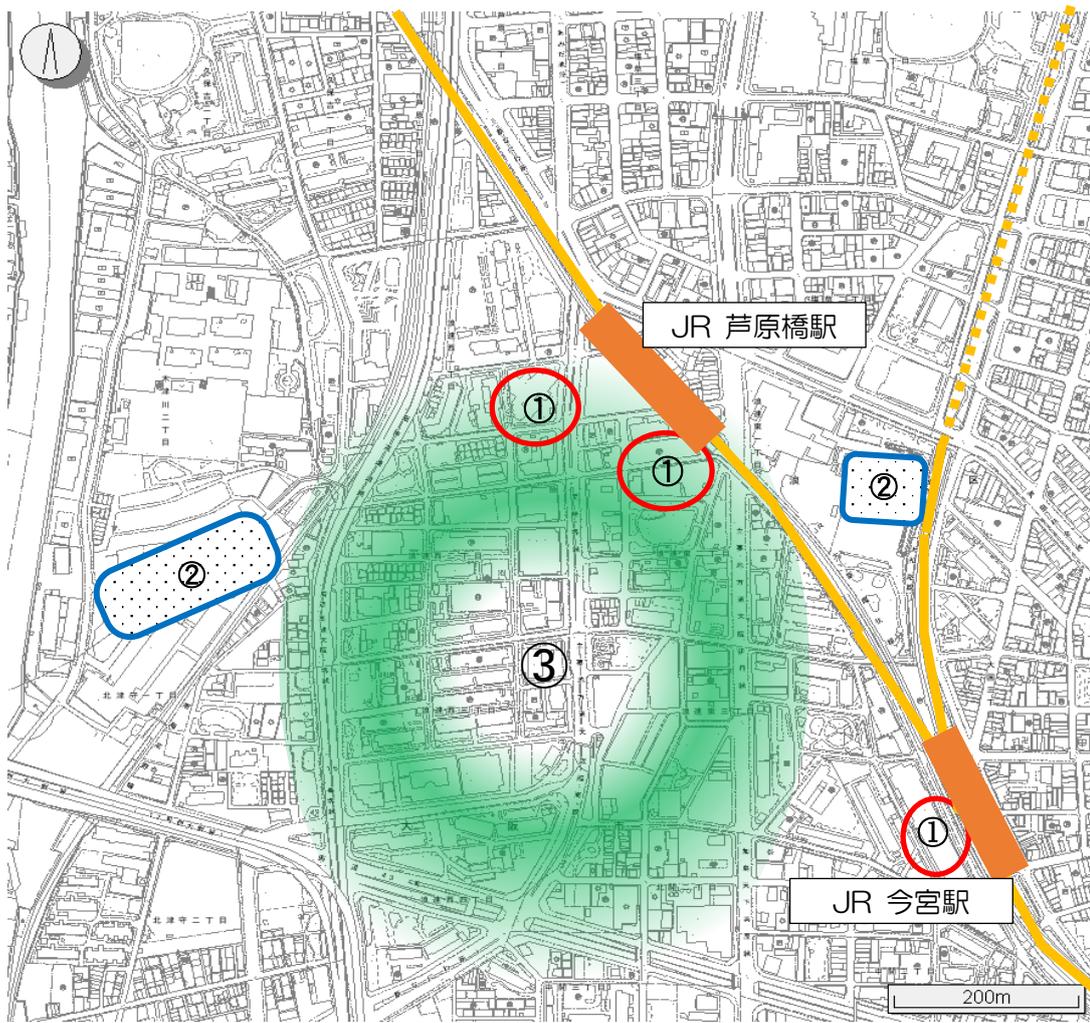
(地図①)

② 地域活性化のために大規模未利用地を活用するエリア

⇒ 「旧イベント得区A用地」「もと浪速青少年会館用地」については幅広い集客や雇用の場といった地域活性化の視点を踏まえての活用とします。(地図②)

③ 住宅供給と公園を核とした交流を生み出すゾーン

⇒ 本市未利用地の売却による住宅供給や、公園を地域内での活発なコミュニケーション機会の提供のために活用します。(地図③の公園・未利用地)



5 スケジュール

	第1フェーズ (概ね3年以内)	第2フェーズ (概ね5年以内)	第3フェーズ (概ね5年～10年)
住環境の整備	◎本市の未利用地を売却することによる新築住居の供給	同左	同左
教育環境の提供	◎多様な「学び」の場づくり ◎校長裁量の拡大による学力向上に関する取り組みの実践 ◎学校以外での学習機会の提供 ◎日本語指導が必要な児童生徒への学校生活への支援	◎同左の各取り組み ◎日本語に課題のある児童・生徒に対する支援としての専門学校との連携・交流	同左
賑わい交流学び他	◎駅近の未利用地を「賑わい・交流・学びの拠点づくり」エリアとしてまちに必要な機能を誘致	◎大規模な未利用地を「地域活性化のための活用」エリアとして集客施設・雇用の場の誘致	◎交流拠点を核とした新旧住民のコミュニケーション機会の提供と、多様な主体によるコミュニティ・ネットワークによる発展的事業の実施
新たなコミュニティ	◎西南地域に点在する公園を活用した催事等の検討・実施 ◎地域清掃活動の担い手募集と清掃活動の実施	◎ワークショップ受講生や清掃活動の担い手を核としたコミュニケーション機会の提供	◎多様な主体によるコミュニティ・ネットワークによる発展的事業の実施